



2014年、横浜ホットロッドショーに出展するために千葉県の実業家が自社のデモ車として製作した1台のアイアンスポーツ。

同店の代表でありビルダーの相川が頭に思い描いたのはチョップバーではなく、ホットロッドテイストを含んだ「ストリートファイター」というジャンルであった。高性能エンジンを採るスポーツ性の高い車種のカスタムジャンルとして名高いそれを、ハーレーをベースに具現化する。誰で想像するよりも、現実には驚くべきものであった。

既成車体にこだわった相川氏はアイアンエンジンを選択し、自分の所有しているコレクションの中から集えそうなパーツ群を駆使して想像を増大させる。アイアンのフレーム、CBS900のフロントフォーク、15インチの鉄チンホイール。そして新たな課題を自らに課すこととなる。世の流行を取り入れた、新旧の融合。

テーマと主要パーツが決まれば、鉄に向かい合い想像に添付けていく作業の連続。性能面、実用性、シルエット、バランス。さらに言えば、ショーレースで上位を狙う独創性。

注目はシート下のフレームをこっそりと作り変え、楕円パイプを使いオイルタンクと併用の片持ちのシングルアーム。鉄チンホイールもハブとリムを一度分離し、ハブ部分をオフセット。結合部のアダプターはドッカディ製を加工流用しているという。もうひとつは車体を細く見せるためと、ホットロッドテイスト。そして流行という種類の意味を含め、インマニをワンオフ製作し表層した。スポーツスタータンクを買ったウェーバーのツーシートキャブ。さらに「ミサイルみたいでカッコいい」と腹下に配置されたマフラー。前後の形を対象にしたスプリットしたロックカーボックス。……ポイントのひとつひとつを解説していたらこのページが文字で埋まってしまふ。

それくらいすべての機所に新しいアイデアが詰まっている。「オンもオフもエンジンがついている乗り物はすべて好き」というビルダーの広い視野と、底なしの探求心。ショーレースで上位を獲得してやろうという負けん気が作り出した珠玉の1台。外人たちの目にはその完成度の高さが色濃く残ったはずである。

STREET FIGHTER

